

講義名	言語と社会(12)			授業形態	
担当教員	関 梅 / 濱田 真由美	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
			ナンバリング・コード	FRL100	

主題と概要

本学独自のCan-doリストに基づき、英語と中国語の基本的な定型表現を身に付けることによって、異文化と多様性を理解する態度・姿勢を育成します。全15回の授業の初回は、プレシメントテスト(クラス分けテスト)を行います。残り14回を前半7回・後半7回に分けて、英語と中国語の二言語を学習します。なお、クラスによって、英語・中国語あるいは中国語・英語と授業進行が異なります。

到達目標

英語と中国語の二言語の基本的な特徴と構造を理解し、短期間海外に滞在することなどを想定しながら、ホテル・食事・買い物など「実際の場面で「初歩の会話ができるようになる。

提出課題

適宜指示します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

小テストは次回の授業で講評を行います。(中)

評価の基準

評価の内訳は以下の通り(英・中とも同じ):クイズ(毎回授業で実施する小テスト)50%、授業参加度・授業態度50%。両言語の評価の合計を100点に換算。

履修にあたっての注意・助言他

出席欠席にも厳格なルールがあります。全15回の授業のうち、欠席5回で不合格となります。15分までの遅刻は、遅刻3回で欠席1回の扱い。

教科書

・教材はプリントを配布します。

参考図書

・必要に応じて案内します。

その他

必要に応じて適宜指示します。

授業計画

1. プレシメントテスト(クラス分けテスト)
2. 英語Unit 1: Introducing yourself
予習: シラバスを熟読し、授業準備をする(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
3. 英語Unit 2: Talking about interests and hobbies
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
4. 英語Unit 3: Airport and immigration
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
5. 英語Unit 4: Hotel
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
6. 英語Unit 5: Fast food restaurant
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
7. 英語Unit 6: Shopping
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
8. 英語Unit 7: Directions
予習: 分からない単語を調べる(2時間) / 復習: テキストの音読・単語の復習(2時間)
9. 中国語 第1課「中国のひと・くに・ことは」
予習: 図書館やインターネットで中国や中国語について調べる(2時間) / 復習: 教材プリントのふり返り・残りのドリル(2時間)
10. 中国語 第2課「中国語のしくみを知る」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)
11. 中国語 第3課「自己紹介」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)
12. 中国語 第4課「あれは何で「すか」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)
13. 中国語 第5課「きょうた「いいいますか」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)
14. 中国語 第6課「と「こへ行くので「すか」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)
15. 中国語 第7課「今日はわたしがごちそうします」
予習: 単語帳(簡体字・ピンイン練習)(2時間) / 復習: 会話文の音読・残りのドリル(2時間)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

教員ごとに異なります。

備考